

令和5年度特色ある教育実践研究校（平和教育）

公開研究会

広島市立己斐中学校



「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」を語る生徒の育成

～校内の文化的平和を通して～

本校の平和教育の流れ

1 令和2年度

研究主題「英語で語るヒロシマ～仲間との関わり合いを通して～」を設定し、英語教育の充実と平和教育の推進を目指して年間を通した取組を行った。原爆の絵本『おこりじぞう』（山口勇子・原作 金の星社）を、英語にする翻訳を授業で行い、ヒロシマで起きた出来事ことについて、自分の英語で表現したり伝え合ったりすることのできる授業を目指した。

授業の中では、生徒が一人一文を担当し、辞書を使用しながら、翻訳を行った。そして、一人ひとりが翻訳することによって、単元の最後では一冊の本を完成することができた。完成した本を、代表生徒が英語で聞き手に配慮しながら朗読するためには発音指導が必要であったため、事前にALTから発音指導を受ける機会を設けた。

代表生徒が8月6日の校内で実施した平和集会で事前指導の成果を発揮しつつ発表した。

2 令和3年度

平和教育と英語教育の指定校として、広島市が目指す教育の方向性の1つである「自分の言葉で世界に平和を語れるなど、グローバル化に対応した人材」の育成に力を入れるために、Peace Projectの単元を設定し、平和学習を英語教育と関連付けながら以下の主な取組を行った。

具体的な取組内容

- 「平和教育プログラム」による平和教育を教育課程に位置付け、平和教育カリキュラムを作成
- 英語授業におけるALTを活用した「Peace Project」の実施
- 中学生による「伝える HIROSHIMA プロジェクト」と関連付けた特色ある取組

8月6日の平和登校日に校内で実施した「平和学習発表会」として披露し、全校に発信する機会をもった。感染症対策として、発表内容は事前に収録したものをDVDで全校放送した。

3 令和4年度

これまで、平和教育と英語教育を関連付けながら取り組むことで世界にアピールする手段の一つを体験することができた。今年度は平和な世界の実現の手段の違いを乗り越えながら伝えるために、必要な考え方や伝え方を探究することで、ヒロシマの思いを世界にアピールする力を育成することを目的とした。

また、平和教育プログラム試行授業を通して、被爆の実相を知り、ヒロシマの思いを理解し、考え方のちがいのある人々を巻き込む必要性に気づかせることができた。

本校で行っている平和公園フィールドワークに平和アンケート調査・分析を行うことにより、平和教育プログラム改定案の内容とリンクするためより深い学習活動になった。

4 令和5年度

(1) 「平和教育プログラム」を基盤とした平和教育カリキュラム

令和4年度での平和教育プログラム試行授業の経験を生かして、新しく改定された平和教育プログラム、ひろしま平和ノートを中心に平和教育カリキュラムを構成した。また、今年度から校外に出て平和について学習する機会を設けることができ、これまでより深い学習活動が実施できた。8月6日の平和登校日には、全校生徒で広島国際会議場フェニックスホールに行き、「ひろしま子ども平和の集い」に参加した。全国から集まった同世代の学生による平和メッセージを聞き、平和意識の向上を図った。



(2) 各学年や生徒会、教科の取組

① 1学年

平和教育プログラムの単元の目標である「広島のみちの復興の様子を知り、広島の人々の平和への思いにふれるとともに、広島に住む自分たちの役割について考え、一人一人が平和に向けて主体的に考えていこうとする心を持つ」ことを踏まえ、壊されたまちから復興したまち（マツダスタジアムや NHK 広島）を路面電車で巡るフィールドワークを行った。事後学習として、タブレットでスライドを作成し、学年内で交流を行った。

② 3学年

平和教育プログラムの単元の目標である「核廃絶に向けた世界の取組から、現在の世界が抱える課題を理解し、課題解決の道を探求する過程で、広島の中学生として持続可能な社会を形成していくという自覚を持つ」ことを踏まえ、これまでの平和学習（1年次：碑巡りマップ、2年次：平和記念公園フィールドワーク、文化的平和のために自分ができることをポスターにまとめる活動）を活かして、「文化的平和」について留学生と意見交流を行った。



③ 生徒会執行部

文化的平和をテーマに3KGsを設定し、校内の文化的平和の振興を図った。4月には、文化的平和を中心に道徳を実施し、それぞれのクラスでいじめ防止宣言を作成した。また、令和4年度よりウクライナの中高生との交流会を実施した。令和5年度は校内で募金活動を行い、集めたお金で、カイロや靴下など必要な物品を購入し、関係機関を通じてウクライナの中高生に送った。



④ 外国語科

全学年の外国語科の授業では、英語とウクライナ語の2つの言語で、ウクライナの学生に平和メッセージを作成し、関係機関を通じて送った。

⑤ 2学年

平和教育プログラムの単元目標である「平和や核兵器に対する様々な見方・考え方を踏まえて、広島の中学生として世界の人々へ平和メッセージを発信する」ことを踏まえ、前期にはアフターサミット見学会や平和公園のフィールドワークを実施し、実際に足を運んで広島を学んだ。後期では、これまでの平和学習のまとめとして、平和という大きなテーマのもと、生徒自らが問いを設定し、その問いに沿って調査活動を行い、ポスターにまとめ、ポスターセッション会という形で地域住民や保護者、1学年生徒に説明する場を設定する。ポスターセッション会では、聞き手の理解が深まるように工夫しながら説明ができるように指導していく。

●単元の評価規準

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について、これまでの学習を振り返り、広島の中学生として発信すべきことがあることを理解している。【知識】</p> <p>② 目的に応じて、適切な方法で効率的に調査活動を行っている。【技能】</p> <p>③ これまで学習した内容に加えて、自分たちで設定した問いに対して探究し続ける学習によって、自分たちの生活と深く関わっていることに気づいている。【探究的な学習のよさの理解】</p>	<p>① 「ヒロシマが世界に伝えるべき平和」について、自らが問いを設定し、解決のために具体的な取組について、見通しを持って計画している。【課題の設定】</p> <p>② 自らが設定した問いについて、目的に合った方法を選択して、情報を収集している。【情報の収集】</p> <p>③ 収集した情報を、他者に自分の考えが伝わるように、目的に合わせて分類したり、効果を意識して表現方法を考えたりしている。【整理・分析】</p> <p>④ 自ら設定した問いについて、目的や相手に応じて自分自身の考えをまとめ、適切な方法で表現している。【まとめ・表現】</p>	<p>① 探究活動を通して、自分のよさや他者のよさを生かしながら、学び合おうとしている。【自己理解・他者理解】</p> <p>② 自らが設定した問いについて、異なる考えのよさや他者の考えを受け入れ、参考にしようとしている。【主体性・協働性】</p> <p>③ インタビュー調査やアンケート調査の分析結果から、これからの平和な世界の実現を視野に入れ、今後の学習や生活に生かそうとしている。【将来展望・社会参画】</p>

●指導と評価の計画

単元	時数	目標	学習内容・学習活動	知	思	主	評価方法
【ヒロシマが世界に伝えるべき平和】	1	前期の平和学習の見通しを持たせる。	・平和教育意識調査 (Google Form) ・ガイダンス(体育館)				
	2 ～ 5	G7広島サミットでは何が行われたのかを知る。	・アフターサミット見学会の参加	①			ワークシート 様相観察
	6	二人の被爆者の生い立ちや当時の様子から、被爆の実相についての理解を深め、原	【平和教育プログラム】 ひろしま平和ノート 学習1 (道徳科)	①			ひろしま平和ノート 様相観察

	爆の被害を知らない人々へ継承していくための課題を知る。	(次世代へのメッセージ)				
7 ~ 9	広島にある碑や原爆遺構に関連する歴史的な出来事や文化的な背景を調べ、理解させる。	・タブレットを使って、フィールドワークのための事前調べ	① ②	① ②		ワークシート 様相観察
10 ~ 11	フィールドワーク中のマナーや計画の立て方を学ばせる。	・事前調べをもとに、どのようなコースで回るのかを決める	②	①	①	ワークシート 様相観察
12	フィールドワークを安心、安全なものにするため、自分たちが何をしなければならないのかを考えさせる。	・安心、安全なフィールドワークのためには、どのようなことに気をつける必要があるのか			①	ワークシート 様相観察
13 ~ 18	平和公園周辺のフィールドワークを通して、ヒロシマが世界に伝えるべき平和とは何かを知る。	・平和公園フィールドワーク学習 ・資料館見学、被爆体験講話	②	②	②	様相観察
19	フィールドワークではどのようなことを学んだのかを振り返り、ヒロシマが世界に伝えるべき平和とは何かを考えさせる。	・フィールドワークで学んだことは何か ・ヒロシマが世界に伝えるべき平和とは何か	③		②	ワークシート 様相観察
20 ~ 23	フィールドワークで学んだことを、視点を定めて分析・整理させる。	タブレットを使って、フィールドワークで学んだことをプレゼンするスライドづくり		③	②	表現物 様相観察
24	オバマ元米大統領やローマ教皇のメッセージ、日本政府の考えを通して、様々なものの見方・考え方があることを理解し、誰にどのようなメッセージを発信すべきかを考える。	【平和教育プログラム】 ひろしま平和ノート 学習2 (社会科) (国境を超える平和へのメッセージ)	①			ひろしま平和 ノート 様相観察
25	スライドにまとめた内容を聞き手の理解が深まるよう工夫しながら説明させる。	・タブレットを使った学級内交流会 ・前期平和学習の振り返り	③	④	③	表現物 様相観察
【七 ロ 】 26	「ひろしま子ども平和の集い」に参加し、同世代の子ど	・平和登校日 ・全校生徒で「ひろしま子ども平和	①			様相観察

	もたちの平和メッセージを聞く活動を通して、平和意識の向上を図る。	の集い」に参加				
27	広島過去の歴史に関する知識や平和に対する自分の考えを整理する。	・平和教育意識調査 (Google Form)				
28	後期の平和学習の見通しを持たせる。	ガイダンス(体育館)				
29	核兵器に対する自らの見方・考え方を基に、広島の中学生として世界の人々への平和メッセージを発信する。	【平和教育プログラム】 ひろしま平和ノート 学習3 (国語科) (私から世界の人々へのメッセージ)	③	④		ひろしま平和ノート 様相観察
30	自分の考える平和、他者の考える平和を通して、各学級の考える平和を考え、それを大切にできるような行動の変容を促す。	わたしたちの考える平和とは?	①		①	表現物 様相観察
31	平和に関する、答えの用意されていない問いを見いだすことができるようにする。	中矢礼美教授(広島大学大学院) 講話「今日の私と明日の世界」	①			様相観察
32	中学生にもできる平和なことにはどのようなことがあるのかを理解する。	牛来千鶴さん(株式会社ソアラサービス代表取締役)講話「中学生にもできる平和なこと」	①			様相観察
33	あらゆる諸課題の中で「何に焦点を当てて研究を行うか」を示すものを明確にする。	「平和」に関するテーマを決める。	①		②	ワークシート 様相観察
34	決定した研究テーマから、その課題研究全体で何を明らかにしたいか(リサーチクエスト)を示すことができる。	テーマをもとにリサーチクエスト(※課題研究全体で明らかにしたい問い)を導く	①		②	ワークシート 様相観察
35 ~ 38	自らが設定した問いに対して ~ 仮説を立て、適切な調査方法を考えさせる。	仮説を立て、適切な調査方法を選ぶ。 ・複数の仮説を立てる。 ・立てた仮説を検証するために、どのような調査を行うか考える。	②	① ②	③	ワークシート 様相観察
39 ~	自らが設定した問いを解決するために、調査を実施させ	出張希望(校外)の調査と校内(他学年、他クラスの生徒など)の調査	②	②	②	ワークシート 様相観察

	43	る。	に分かれて、活動する。 ・インタビュー調査 ・アンケート調査				
	44 ～ 49	調査の結果を分析し、ポスターにまとめ、表現させる。	調査で得られた結果が、伝わるように工夫しながらまとめよう。 ・ポスター作成 ・発表練習(リハーサル)		② ③	②	ワークシート 様相観察 ポスター
【ヒロシマが世界に伝えるべき平和を発信しよう】	50 本 時	ポスターにまとめた内容を聞き手の理解が深まるよう工夫しながら説明させる。	自ら設定した問いに対する調査結果を伝えよう。 ・ポスターセッション会		④		表現物 様相観察
	51	活動を通した振り返りをさせ、新たな疑問を抱かせたり、これからの自分について考えさせたりする。	活動を通して、平和な世界とこれからの自分について考えよう。 ・単元の振り返り	③	④	③	表現物 ワークシート